

令和5年香美市議会定例会1月開会会議 市長提案説明

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和5年第1回香美市議会定例会1月開会会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

本日も、私の政治姿勢や市政運営の考え方について、本日提案の議案にも触れながらご説明させて頂き、議員の皆さま並びに市民の皆さまのご理解とご協力をお願いできればと考えております。

さて、私にとりまして、令和5年は市長就任後初めての当初予算編成があり、また人事についても、私自身の手で行う年であることから、これまで以上に市長としてのリーダーシップを発揮して、市民の皆様にお約束した政策を実現させたいと、決意を新たにしているところです。

新年度予算につきましては、来週から市長査定が始まります。企画財政課からは、予算編成の厳しさに対する指摘があり、各課から上がってきた予算を大幅に削らなければならない旨報告を受けています。

しかし私としましては、厳しい財政運営を踏まえた上で、今後の香美市にとって必要である事業については、積極的に取り組んでいきたいと思っております。未来に花を咲かせるためには、今、新たな種をまかなければなりません。将来の税収増につながるような産業振興策や、人口増につながる「まちづくり」や教育・子育て施策には、しっかりと予算措置を行います。

この考え方を踏まえ、ふるさと納税を原資としたまちづくり応援基金については、「ふるさと香美市」にご寄付頂いた方々へのご期待を裏切ることなく、積極的に活用していきたいと思っております。そしてご寄付頂いた方々に、どのように活用して、どういった成果が上がったかを知って頂けるよう、情報発信にも工夫をして、さらなるご寄付を呼び込めるよう努力してまいります。

次に、人事についてです。4月1日付けの人事異動につきましては、これからの香美市を背負って立つ中堅・若手職員の成長を促していくことを念頭に、実施したいと考えております。目まぐるしく変化する社会情勢の中で、市民生活を守り、発展させていくためには、職員の力を高めていくことが不可欠です。

一方で、これまでもお話していますように、手本を示すべき経験豊かな職員が、退職によって市役所を去っているという現状があります。私としましては、さらなる職員と組織のレベルアップのためには、若手職員を指導できる多種多様で経験豊かな人材が必要であると考えております。

今後の香美市を背負って立つ職員には、自分とは異なる仕事の進め方を学び、自分が将来どんな管理職をモデルとするか、またどんな管理職を目指すかという、目標とすべき人材像を明確にしてほしいと思います。

このために、県庁などで経験を積んだOBを念頭に、中堅・若手職員のチャレンジを促し、支えてくれる人材を市役所に招聘できないか検討しております。

また、親の介護との両立や、男性育児休業率の向上など、全ての職員にとって働きやすい環境にしていくことが課題ですが、女性職員の割合が高い香美市役所において、今後の女性管理職の増加に併せ、女性にとってより働きやすい職場にすべく、職員の意見も聞くことから始め、改善策を検討していきます。

次に、新型コロナウイルス感染症についてです。

現在は、第8波ということで、感染症対応の目安は、上から2番目「対策強化」のレベルとなっております。一方で、高知県は、年末年始の会食、旅行、イベントへの参加に対して規制しなかったことから、感染症対策を行えば、経済活動を止めないという方向性を打ち出しています。

香美市における、12月19日時点の全年代におけるワクチン接種率は、4回目の接種が終わった方は48.99%、5回目は16.90%となっています。また集団接種につきましては、今月15日までの予約受付分での終了を予定しております。

報道によりますと、国は、春にも感染症法上、季節性インフルエンザと同じ「5類」への引き下げを行うとの見方がありますが、私としましては、国会においてしっかりと引き下げを決めて頂きたいと考えております。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症前の日常を取り戻し、コロナ禍で失われたものを取り返す年度にすべく、しっかりと準備をしままいります。

次に、本議会で予算計上させて頂いている出産・子育て応援事業についてです。

この事業は、来年度からスタートするこども家庭庁の設置に合わせて、継続していく事業であると認識しておりますが、令和4年4月以降に出産された方を対象に子ども1人につき10万円。現在、妊娠期にある妊婦に5万円を支給するというものです。

国は妊娠届出時より、子育て家庭に寄り添い、出産・育児などの見通しを立てるための面談など、伴走型相談支援について、市町村が創意工夫を凝らして取り組むことを求めています。

香美市におきましても、新たに設置する健康推進課において、国の目指す方向性に従い、新たな取り組みを検討していきます。

さて私は、香美市の教育について、最も重要な課題は、不登校の課題だと考えておりますが、この事業を生かすことで、不登校対策にも有効な事業になるのではないかと考えております。

私なりに先進事例を研究する中で、名古屋市が行っている「イライラしない子育て講座」という事業を知ったのですが、児童虐待防止はもちろんのこと、こどもの自己肯定感を高め、不登校対策にもつながる事例として、注目しています。私は、この事業を新たな出産子育て応援事業と組み合わせることができないかと、事例の研究を担当課に指示したところです。

このように他の自治体の先行事例をお手本に、新たな事業へのチャレンジも果敢に検討し、香美市の子育て環境を向上させ、子育てするなら香美市と言ってもらえるよう、今後とも取り組んでまいります。